

県内の葉たばこ栽培ほ場における立枯病菌の検出率と菌密度

福島県たばこ試験場

平成17年度福島県たばこ試験場試験研究成績書

1 部門名 特用作物－タバコ－土壌微生物、病害虫防除

分類コード 06-01-11230000

2 担当者 根本和俊

3 要 旨

福島県では1993年以降、立枯病の発生が徐々に増加し、2000年には立枯病による被害面積が187.6ha、全耕作面積の約10%にまで拡大した。葉たばこ安定生産の阻害要因の一つとして発生の拡大が懸念されているとともに、その効果的な防除法の確立が求められていることから、県内で立枯病の発生が問題となっているほ場を中心に立枯病菌の分布状況と菌密度等を調査した。

(1) 県内198ほ場中、125ほ場の土壌から立枯病菌が検出された。検出率は63.1%であった。特に常葉、石川管内のほ場での検出率が高かった。

(2) 立枯病菌の検出された125土壌中、土壌消毒などの防除が必要とされる菌密度104cfu/g乾土以上の土壌は86土壌で確認された。会津と三春においては105cfu/g乾土以上の菌密度で立枯病菌が検出される割合が50%以上と高かった。

(3) 病原性についてトマト幼苗で検定した結果、すべての分離菌株がトマトに対して強い病原性を示した。また、分離された立枯病菌はすべて生理型3であり、レースはタバコ由来であることからナス科植物由来のレース1と考えられた。

4 その他の資料など

なし